

日本作物学会 第240回講演会の開催について

日本作物学会（会長：齊藤邦行 岡山大学大学院環境生命科学研究科 教授）は今年で創立 88 年目を迎え、講演会も 240 回を数えます。本学会は、わが国の農業・農学をリードし、イネをはじめとする農作物の安定生産や高品質化に貢献してきました。今回の講演会では、最新の研究成果発表（一般講演 62 題、ポスター発表 71 題の合計 133 題）が行われるほか、中国と韓国の作物学会関係者を招いての国際交流セミナー、シンポジウム 2 課題と小集会 2 課題などが開催されます。ここでは、これらの中から市民公開シンポジウムをご紹介します。なお、取材等で参加される場合は、事前に講演会運営委員会事務局（信州大学・萩原素之、csc2015@shinshu-u.ac.jp）までご連絡ください。

講演会開催日時： 2015年9月5日（土）～6日（日）

講演会開催場所： 信州大学長野（工学）キャンパス（長野市若里4-17-1）

講演会ホームページ：<http://www.cropscience.jp/meeting/240/index.html>

連絡先	日本作物学会 事務取扱所	TEL: 03-3551-9891 FAX: 03-3553-2047
	日本作物学会 第240回講演会運営委員会事務局	TEL: 0265-77-1410（信州大学農学部作物学研究室内・萩原素之）
	日本作物学会 広報委員会	TEL: 059-231-9488（三重大学生物資源学部・長屋祐一）

市民公開シンポジウム（主催：日本作物学会・日本雑草学会）

米になるイネ、ならないイネ

—雑草イネの来た道と今後、研究先進地長野県からの最新情報—

9月5日（土）13:00～17:00 信州大学長野（工学）キャンパス内
信州科学技術総合振興センター（SASTec）3階

「雑草イネ」は「赤米」として古くから存在し、栽培されてきたが、明治以降は政府の指導で姿を消していき、絶滅したかのように思われていた。ところが2000年頃から「再発」し、栽培イネの収量や品質の低下事例が長野県で発生しており、全国でも発生例があるとされる。海外の米生産は大半が直播栽培によるが、これら諸外国では例外なく雑草イネの蔓延による被害が大問題になっている。

TPP時代を迎え、米の価格低減のために日本の稲作は大規模化が必至で、移植栽培から直播栽培へ転換が進んでいる。これは、今後も国産米を消費者に提供し続けるには避けられない道であろうが、一方で、雑草イネによる米生産への打撃という危険をはらんでいる。直播栽培が広がりつつある今、雑草イネというリスクが日本の稲作の足下に確実に忍び寄っているが、一般市民はおろか米生産者や農業技術者にもその認識が薄い、あるいはリスクが直視されていないのが現状である。

本シンポジウムは、美味しい国産米が今後も食べられることを願い、日本稲作を危険にさらす可能性のある「雑草イネ」を多くの人に知ってもらい、「雑草イネ」が深刻化する前に的確に対処できるようにするための研究体制や現場指導体制を全国的に早期確立することの重要性を広くアピールする場としたい。

オーガナイザー 萩原 素之（信州大学農学部 教授）

コーディネーター 寺島 一男（農研機構・中央農業総合研究センター 所長）

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. 雑草イネとは何か —発生経過や被害にみる海外との違い— | 渡邊 寛明（東北農業研究センター） |
| 2. 日本の雑草イネの来歴と遺伝的背景 | 赤坂 舞子（作物研究所） |
| 3. 直播栽培と雑草イネ | 吉永 悟志（中央農研北陸研究センター） |
| 4. 圃場における雑草イネ発生調査と被害の可視化 | 渡邊 修（信州大学農学部）・
細井 淳（長野県農業試験場） |
| 5. 長野県における雑草イネの総合的防除対策 | 細井 淳・酒井 長雄（長野県農業試験場） |